

# 「子供と向き合う時間」の確保に向けて

NO. 2

## 「熟議」をしましょう！

学校現場で「業務改善」を推進するのは大変困難なことだと考えられます。なぜかという、学校ではこれまでも工夫して仕事をしてきていますし、学校における教育活動の全てが「子供たちに力をつける」ために行われていることを考えると、業務内容に優劣（優先順位）をつけることは大変難しいからです。

しかし、「業務改善」は今後「教育の質」を高めるために必要な視点であり、推進するためには教職員の皆さんが当事者意識を持って目的意識、課題意識を共有することが不可欠になります。

「熟議」という言葉を聞いたことがありますか？

「熟議」とは、多くの当事者によって「議論」を重ね、現状の把握・分析や解決のアイデアを出す一連の流れであり、課題の改善に向けた対策を考え、参画意識を高める効果的な取組手法のひとつです。

11 月 27 日（月）くすのきプラザで「第 2 回学校支援拡大会議」を実施し、文部科学省の「学校現場における業務改善加速事業」指定校である両中学校から、校長先生を含む 4 名ずつの先生方に集まってもらいました。町教委・各中学校からここまでの業務改善の取組について発表共有した後、アンケート結果を分析した本町の課題とその改善に向けた熟議を行いました。

次ページから熟議で出た意見を掲載しています。各校の代表が出した意見です。これらの意見を参考に、すぐに取り組めることを考えたり、特に自校の課題と考えられる項目について、改善策を議論する等していただければと思います。

## 【熟議の記録】

(テーマ)「子供と向き合う時間の確保」について

- ①「子供と向き合う時間が確保できている。」と回答した教員が少ないのはなぜか？
- ② 新たな取組を行う時に、スクラップ&ビルドができないのはなぜか？
- ③ 業務改善が自分のこととして考えられないのはなぜか？

## 【課題と解決策】

- ①「子供と向き合う時間が確保できている。」と回答した教員が少ないのはなぜか？

～向き合う時間を確保できない現実・状況（何に時間をとられているか）～

(余裕の無い日常)

○授業、学級経営、給食指導、日記への返事、部活動等業務をこなすだけで精一杯。

日記へのコメントすら十分返せない日がある。

○授業数が多く、空き時間が少ない。(授業時間数の管理に縛られている。)

○事務作業時間が多い。

○教科の課題（ワーク、プリント）提出物のチェックに時間がかかる。

○放課後にも会議等やることが多くて時間が取れない。

○空き時間にも制約を受ける状況がある。

○テスト前でも生徒の質問を受ける時間が少ない。(放課後は面談等でつぶれる)

○気になる生徒がいても、授業、学級経営、部活動で時間が取れず話ができない。

○学年会などを開いて話しあう時間が取れない。

○部活動の指導に時間をとられる。

○持ち帰らないと業務をこなす時間が足りない。

○SST等で子供と向き合うチャンスでも、内容が前日に知らされたりすると準備ができない。

## 【解決策】

- 「放課後指導日」（テスト前の質問等）を設定する。
- 給食指導員を配置、教室前まで食器等を運ぶなど給食配膳時間の工夫を検討する。
- 会議開始時刻の厳守と終了時間の設定
- テスト終了日を午前日程にする。(部活休養日などとの抱き合わせ実施、採点時間の確保も)
- 高性能な事務機器の導入、充実（校務支援システム）
- パソコン活用によるプリント（紙媒体）の印刷業務等の軽減
- 職員室に高速カラープリンターを設置する
- 調査・照会文書の回答・報告様式の変更（簡略化） ※公印の廃止など
- 外部人材の活用
  - 諸費・給食費の徴収
  - 部活動指導員（責任のもてる立場で）
  - 給食指導員
  - 両中学校合同で構成する部の創設（人数の少ない部）
  - システムエンジニア（Gウェア、HP等補助）



- 教材データ、資料の共有化
- 会議（学年会、分掌会、定例会）の固定化（曜日、時間）  
※部活動休養日を活用 ※5時間授業日の6時間目

（仕事の偏り）

- 分掌等の業務の分担に偏りがあり、仕事量が違う。多い教員は更にしんどい。
- 主任と担任を兼務している状況も見られる。
- 授業時数が多い教員がいる。（週当たりの時間数のアンバランス）

【解決策】

- 分掌の仕事を「1人1役」で分担する。

（緊急な対応が入る）

- 問題行動が発生した時の対応に追われてしまう。
- 急に生徒指導等の仕事が入る。
- 保護者対応に時間をとられる。

【解決策】

- 勤務時間外の電話対応をなくす。（外部人材活用、留守番電話の設置）

（学校行事が多い）

- 行事が多く、こなすだけで精一杯である。

【解決策】

- 記録を電子データで残し、次年度の「たたき台（原案）」にすることでスムーズな引継を行う。
- 体育祭・文化祭の隔年実施。
- 研究会の実施回数を減らす。
- 時間割に必要な作業時間を設定して確保する。

② 新たな取組を行う時に、スクラップ＆ビルドができないのはなぜか？

（取り組む時間がとれない）

- 業務改善を行う時間的余裕がない。
- 熟議を実施する時間が十分とれない。
- 目の前の仕事に追われ、スクラップアンドビルドを考える時間がない。
- 熟議をしても取組につながらなかったりして改善に至っていない。
- 多忙すぎて現状を守ることで精一杯。

（教員の資質・考え方）

- ある程度できていても更に完璧を求めるまじめさ →やめられない。
- 管理職、行政の前例主義があり、「しない」の方向で考えることが難しい。
- スケジュール的な事もあって昨年を踏襲する方がスムーズに思える。
- 新しい事は効果が見えるので始めやすいが、やっていた事を無くすのは勇気がいる。

【解決策】

- 優先順位を整理する。（SWOT分析で「必要性」「緊急性」「重要性」について整理する。）
- 何をするべきか確認する時間（研修、会議）を確保する。

（周囲の反応）

○スクラップしようとする「どうしてですか？」と保護者から質問がくる。

【解決策】

- 職員に取組の意図（目的）をきちんと伝え、（説明できるよう）理解を高める。

③ 業務改善が自分のこととして考えられないのはなぜか？

（教職員の意識）

- 「子供と向き合う時間」とはどのような時間なのか、理解できていない。又はイメージが違う。
- 持ち帰らないと業務をこなす時間が足りない。（あきらめ）
- 熟議した内容にすべて改善案が示されない。（「どうせ無理」というあきらめ）

【解決策】

- 職員に取組の意図（目的）をきちんと伝え、理解を高める。
- 「子供と向き合う時間」の具体について説明、協議等して理解する場を設定する。
- 「業務改善通信」を発行して教職員の理解を深める。
- 生徒アンケートによるニーズを把握する。（「質問教室の時期」「先生にどう関わってほしいか」など）

